

赤ちゃん

石狩市立浜益中学校 田中結芽 1年

「おぎゃーおぎゃー」

二〇二四年四月二十四日十三時八分、私にいとこが生まれました。その日はよく澄んだ空で、学校にいた私は早退し、いとこの元へと急いで駆けつけました。

病院につくと、叔母は陣痛が始まっており、もうすぐ赤ちゃんが生まれるところまできていました。私は「もうすぐ会える。やっと赤ちゃんに会える！」と、心臓がメトロノームのように「どく、どく」と早くなっているのを感じました。叔母のそばには、必ず助産師さんがいました。叔母が「痛い！」と叫ぶと、助産師さんは「大丈夫赤ちゃん降りてきているよ。」と優しく、安心できる声をたくさんかけていました。その様子を見て私も安心できました。叔母は難産だったため、赤ちゃんはすぐには生まれず、沢山いきんでいました。私はただ水を飲ませてあげることしかできませんでした。なかなか生まれてこなかったので、「吸引」という方法を使い、赤ちゃんが生まれてきやすいようにしました。

「おぎゃーおぎゃー」

元気な産声が聞こえてきました。その時、私は産んでもいないのになぜか「解放感」に満たされていました。いよいよ念願の「へその緒」を切る瞬間がやってきました。へその緒は硬く、太かったです。このへその緒だけで赤ちゃんはお腹の中でお母さんから栄養をもらって成長し、そして生まれてきます。「命の誕生は奇跡」という事がどういうことなのかを肌で感じた一日となりました。

二〇二四年四月、私は貴重な経験をさせてもらうことができました。叔母と叔父には感謝の気持ちでいっぱいです。

私の将来の夢は「助産師」です。きっかけは弟が生まれた時の助産師さんとの出会いでした。とても優しく笑顔で対応してくださり、第二の母のような安心感がありました。そんな助産師さんに私もなりたいと思うようになり、テレビや本などで助産師さんの仕事について学んでいます。助産師になるためには、たくさんの勉強をしなくてはなりません。辛くなったり、諦めそうになったりしたときには、二〇二四年四月のことを思い出し、乗り越えていきたいです。

二〇XX年の助産師になっている私へ。あなたは、自分がしてもらえた事をお母さんだけでなく、沢山の人に返す事ができていますか？赤ちゃんの幸せを祈り、助産師という仕事に誇りを持っていますか？